

木田小学校 環境学習プログラム学校訪問 結果報告書

[日 時] 令和5年11月6日(月) 13:50~15:15

[出席者] (1) 学校側出席者 木田小学校校長、担当教諭2名、PTA会長
 (2) 市側出席者 福井市環境学習プログラム学校訪問員1名、
 福井市学校教育課職員1名、環境政策課職員2名

[訪問内容] ・福井市環境学習プログラムにかかる取組の確認
 ・足羽山どんぐりプロジェクトの実施

[講 評] ※ESDのポイントを踏まえ取り組まれているかを中心に講評しています。

<能力・態度>

批判的に考える力	①
未来を予測して計画を立てる力	②
多面的・総合的に考える力	③
コミュニケーションを行う力	④
他者と協力する態度	⑤
つながりを尊重する態度	⑥
進んで参加する態度	⑦

<概念>

多様性	①
相互性	②
有限性	③
公平性	④
連携性	⑤
責任性	⑥

概念を理解するために必要な(身につけるべき)能力・態度

I	環境の取組	能力・態度	概念
	<<環境学習・環境教育>> ・総合的な学習の時間を中心に、教科横断的にSDGsの取組内容や、持続可能であることの意義、自分や家庭でできる取組について学習します。 ・各教科で環境に関する学習を行い、環境問題に気づき、環境を保全する必要性を学びます。	②、③、④、⑤、⑦	①、②、③、⑥
		所感 学校訪問当日、最初に環境学習への全体的な取り組みについて、担当教員から丁寧に説明があったことで、とても理解しやすかった。 その後、環境委員会に所属する5・6年生23人を対象に、市職員から、屋内での口頭説明とDVD視聴により「どんぐりプロジェクト」の趣旨や意義を理解させたうえで、学校玄関前にて全員にどんぐり種子のポットへの植え付け作業(一人あたり1ポット)をしてもらった。 環境を保全する意義やSDGsの意味を学習することは重要であるが、一方的な押し付けにならないよう配慮することが大切である。その意味で、当該小学校の姿	

		<p>勢、とくに環境問題を自分ごととしてとらえさせようとの姿勢や環境の何がそしてどこが問題なのかに「気づく」取組に今後とも期待したいと思う。</p>	
II	環境の取組	能力・態度	概念
	<p>《ごみ減量・リサイクル》</p> <p>・環境委員会活動を中心にペットボトルキャップ回収を行い、リサイクルします。</p>	④、⑤、⑦	③、⑤、⑥
		<p>所感</p> <p>環境委員会から各クラスに呼びかけ、児童が各家庭でペットボトルキャップ回収の話をすることで、資源が有限であることやリサイクルすることで有益なものに変化していくことを学ばせている。こうした活動は地味であり、ともすればマンネリ化しやすい分野だが、とても基本的で重要なことであり、今後とも継続的に取り組んでほしいと思う。</p> <p>また、ペットボトルキャップ800個でワクチン一人分になるとの具体的なアナウンスは効果的である。さらに、ペットボトルキャップはどうリサイクルされるのかまで追求するとより児童の理解が深まると考える。</p>	
III	環境の取組	能力・態度	概念
	<p>《その他の環境保全活動》</p> <p>・学校で取り組んでいる環境学習、環境保全活動について保護者に学校便りなどを通して伝達します。</p>	④、⑤、⑥、⑦	②、④、⑤、⑥
		<p>所感</p> <p>先生方や関係者の方々の負担は大きいと思うが、今後ともこうした取り組みの継続・発展を期待している。</p>	
IV	その他の所感		
	<p>学校訪問時には、氣谷校長・宮崎教諭・玉村 PTA 会長が木田小学校の環境への取り組みを丁寧に説明される姿勢が印象に残った。</p> <p>また、どんぐりプロジェクトの一環として行っている、今回の児童によるどんぐり種子の植え付けは、児童間の発芽率競争を目的とするわけではなく、水やり等適切に管理しても、すべてが発芽するわけではないので、その結果の受け止め方（これが自然の摂理であることなど）について、児童に適切に指導・助言・対応してほしいと思う。</p> <p>なお、木田小学校は住宅地に位置する学校であり、周囲に里地・里山などがあるわけではないこともあり、環境への取り組みにあたっては過剰にオリジナリティを追求する必要性は小さいと考えるので、今後とも地道な環境活動を推進されることを期待している。</p>		

[訪問の様子]

